

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3473900573		
法人名	有限会社 サン・クローバー瀬戸田		
事業所名	グループホーム ももの樹		
所在地 (電話番号)	尾道市瀬戸田町名荷522 (電話) 0845-27-2866		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年4月4日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】(20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 3.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	軽量鉄骨平屋建 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	399 円	昼食 399 円
	夕食	532 円	おやつ 円
	または1日当たり 40,000 円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉医院・東生口診療所・県立瀬戸田病院・藤田歯科・富士田歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ももの樹」では、開所時より運営者、管理者、職員がともに理念を具体化するために、みんなが一致することや重なり合っている部分について、見つけあったり認め合ったりしながら、入居者の満足感を得る支援に取り組んでいる。全職員は常日頃から、入居者の元気を引き出すために、プラスの関わりを行なうことに心がけられている。また、全職員はしてあげる介護から生きることに支えとして、例えば入居者の古い記憶・刻まれている記憶を活かしなが、入居者が主人公となって出来ること、得意なこと、やりがいのあることを日々の関わりの中で見出し・み取りながら張り合いのある生活環境も作っている。このことや、本人が覚えたい気持ちや、やりたい気持ちを大切に、ゆっくりと、一つずつ、繰り返し、本人が新たな自分らしく生きていくためのチャンス作りや、家族や地域との良好な関係のもとで、入居者と職員がともに家族的な雰囲気の中で暮らされていることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、理念の共有と日々の取組について今以上の向上が期待されていたが、その後、全職員が日々のサービス提供場面において理念が反映されたものになっているか、理念を育てているのかなど話し合いや、確認を行いながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が自己評価及び外部評価の意義を理解できるように、全職員で話し合いながら評価に取り組んでおり、改善が必要な点については検討を重ね、質の向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、家族代表、地域住民、民生委員の職員等が参加して開催されており、会議の場では事業所の取組や内容や具体的な改善課題を話し合ったりしながら、地域の理解と支援を得る貴重な機会となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議や家族の来訪時等のあらゆる機会を捉えて、意見や不満、要望を積極的に得ながら、出された意見等は前向きに受け止め、改善に向けてミーティング等でよく話し合っ運営への反映に活かしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的にホームの近くにあるお地蔵さんに散歩を兼ねて出かけて、近隣の人達と話をしたりしている。また、回覧板や旬の野菜やお花を持ってきてくださったり、近隣の人が遊びに来たり、お茶や食事を一緒に楽しむなど、近隣に住む人達とふれあう機会が多い。災害時の協力も得られており、ホーム便りも町内の回覧板とともに回してもらおうなど、地域との関係も良好である</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でつながりをもちながら、その人らしく生活していくための理念を、職員で話し合い作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日々利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識して取り組みながら、ケアについて意見を統一している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人達と顔見知りの関係作りを行っている。また、回覧板や旬の野菜や花などのおすそわけを持って来てくださった際には、お茶を入居者と一緒に飲んでもらったり、時には食事にお誘いしたりし、ホームに気軽に立ち寄ってもらえる日常的なつきあいができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価及び外部評価の意義を理解できるように、全職員で話し合いながら評価に取り組んでおり、改善が必要な点については検討を重ね、質の向上にも活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、改善に向けた具体的な取組につなげている。		運営推進会議は、外部の人々の目を通じて事業所の取組内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の支援と理解を得るための貴重な機会です。運営推進会議と評価を結びつけ、更なる質の確保を図られることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会や市主催の研修会に参加することにより、市の担当職員とも話し合い、連携をとりながらサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人毎の生活状況を担当職員が便りに記入して送付しており、健康状態については電話で随時連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表の方も出席され、出された意見には前向きに仕組み、運営に反映している。家族が話しやすい環境作りと、入居者の小さな変化も報告するように心掛けている。また、職員からも積極的に声を掛け、意見をいただくようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がやむを得ない場合は、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成には力を入れており、外部研修にはなるべく多くの職員が参加出来るようにいる。また、内部研修についての年間計画のもとで、それぞれの段階に応じて職員を育てる取り組みが進められている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、近隣の他グループホームとの交流を持つことにより、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談をいきなりの入居につなげるのではなく、本人、家族と十分に話し合いを重ねて事業所の利用に限らず、必要なサービスを検討している。また、体験利用を実施し、ホームの雰囲気に馴染みながら無理なくサービスの利用ができるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者のこれのでの生活や体験の中から、日常生活の中での節約方法や食事とおやつの工夫などを教わりながら、ともに支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で入居者本人と話し合い、本人の希望や行こうを聞くようにしている。また、困難な場合には、入居者の普段の様子や家族から聞いた話の内容から、それぞれの思いや意向を把握し、検討するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人及び家族と意向についての話し合いや、また、職員会議等でも一人ひとりの希望や課題について意見を出し合いながら介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>作成した介護計画についての確認と見直しが定期的に行われており、状態が変わった場合には更に話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の生活圏の中にある、例えば町内会、商店、喫茶店、医療機関等と関係を持ちながら、また、これらを使いながら入居者の多様な暮らしのニーズに対して柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診、往診が受けられており、受信結果に関する情報の共有ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての説明と話し合いが利用開始時に行われており、終末期の支援について、かかりつけ医にも確認しながら、全員で方針が共有できるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りを損ねるような言葉かけや対応をしないように、常日頃から職員が理解し、意識しながら日々の支援を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合ではなく、入居者一人ひとりのペースや体調を考慮しながら、個人の希望にそった支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に料理の下ごしらえや、盛り付け、後片付けをしながら、それぞれの出番を作るように心掛けている。また、毎日の「おやつ」は入居者の希望をとり、できるだけ好みの物を作りながら楽しんで食べることができている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や体調に合わせた個別の入浴支援が行われ、回数や時間についても入居者ごとの希望を尊重しながら、柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を把握し、その人に合った役割を無理強いすることなく出番を多く作って、日々の張り合いがあるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の本人の希望や体調に合わせて、散歩、ドライブ、買い物など、戸外に出かけられる支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に鍵をかけず、入居者の状態に注意して、見守り等によって安全に過ごせるよう支援されている。また、鍵をかけることの弊害が運営者や職員によく理解されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生をも想定しながら、定期的に避難訓練を実施している。また、地域の協力体制は運営推進会議を通じて呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの毎日の食事や水分摂取量は記入することにより、一人ひとりの状態に応じて把握されており、一人ひとりの状態に応じて、きめ細かく対応されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、五感刺激の配慮が行き届き、リビング等はユトリがあり個々の入居者にとっては、居心地の良い安心感のある場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には入居者自信が長年使い慣れた好みの物を持ってきていただいて安心して過ごせるように配慮している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ももの樹

評価年月日 2008年12月15日

記入年月日 2008年12月15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 介護支援専門員 吉村 雪子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	独自の理念を作成している。		必要性を強く感じた場合、変更、付け加えを行う。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営上の方針や目標を決める際には、職員の意見を取り入れるよう、努めている。また、ホームの見えやすいところに掲示し、常に意識をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては、入居の際に話している。地域の人々には、運営推進会議で話したり、ホーム内の見えやすいところへ掲示している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩の際は挨拶や、会話をしている。入居者と回覧板を持って行くなど、自然な関わりができています。また、近所の方が野菜や花など、持ってきくださり中でお茶を飲んだり、時には食事を一緒に取りながら交流している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事の際は声をかけていただいております、できる限りは参加しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	高齢者への行事の声かけを試みているが、参加人数が少ない。		どうすれば参加しやすいのか又、行事以外で、できることなどカンファレンスで話し合いたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価によって見えていない部分が見える。改善しなければいけない課題について、話し合いを行い実行しているが、課題解決にいたらず終わってしまうことがある。		改善をしなければならないことに順位をつける。たくさんのかんことをまとめてやろうとしない。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加者からは、積極的な意見が出て地域との交流のためやホーム内の行事の協力を得ている。しかし開催回数が2ヶ月に1回出来ていない。		開催回数を増やしていく。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者との話し合いの時間、会う機会が少なく、市とともに取り組んでいる意識が薄い。		行き来する機会を増やし、情報を取り入れ、サービスに繋げていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修及び事業所内研修にて、周知徹底している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止のマニュアルを作成し、防止に努めている。しかし、		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	パンフレットや、契約書、重要事項説明書等の説明を十分行い、理解していただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見や苦情がある際には、速やかに対策を検討し、サービスにつなげていくよう努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に話したり、毎月の便りに個人個人の暮らしを載せている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現時点ではないが、意見や苦情がある際には、速やかに対策を検討し、サービスにつなげていこうと考えている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや日々の会話の中で、意見を聞き、運営に繋がるよう、努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事参加等は、職員を増やしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職による個人的な話し合いをおこなっている。その中で利用者についても話し、決定的場合、職員に対し利用者に配慮を心がけるよう強く伝えている。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の機会があれば、研修内容と職員を照らし合わせ、受講している。事業所内研修は毎月開催しスキルアップを図っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>数人の職員は交流があるが、職員全員が参加するような勉強会などは行っていない。</p>		積極的にネットワークを作り、サービスの質の向上に繋げていきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>カンファレンスや日頃の会話から、悩みやストレスを共感するよう心がけている。定期的に親睦会を開催し交流を図っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の勤務状態を把握し、役割を持ちやりがいを持ち勤務できるように努めている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>相談を受けてから必ず本人と会い、本人自身から話を聞くようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談を受ける際、また入居が決まった際等、家族の話をする機会を持ち、傾聴し、受け止めるよう努めている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時には、グループホーム入所だけでなく、他の介護サービスの利用も含め、本人と家族にあったサービスの可能性を考え、話をしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に可能な人は、体験で泊まっていたり、何度か遊びに来てもらい、様子を伺うときもある。</p>		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者からいろんなことを学び、また、喜怒哀楽をともしすることで、家族に近い関係が出来ている。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時は、必ずスタッフも一緒に会話するよう努めており、また、外出もしてもらっている。</p>		
29	<p>本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>遠距離の家族には、電話を勧めたりしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>行きつけの喫茶店や、友人の家へ遊びに行ったりしている。また、昔からの知人の面会や、自宅へ帰るなど、家族の協力を得ている。しかし、すべての入居者ではない。</p>		<p>すべての入居者が、少しでも馴染みを感じる機会を増やしていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の関係を把握しているので、自然に誘導し、孤立しない状況を作るようにしている。また、利用者同士の会話を大切に、職員は見守るようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>入院のためサービスが終了しても、仲の良い利用者がお見舞いに行くなどの機会を作るようにしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常から本人の意思を尊重するように心がけている。難しい場合は本人の立場になり考えている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人や家族に生活歴等を聞き、意識しながらケアを行っている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>心身の状況や有する力を把握し、日々刺激のある生活になるよう、努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の面会時に、状況等を報告し、相談することもある。家族や本人の意見を聞きながら、介護計画を作成するよう心がけている。アセスメント、カンファレンスに職員も参加している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状況が変化した際は、介護計画の見直しをしている。介護支援専門員が関係者の意見を取り入れて作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護支援専門員が常に職員の報告や記録を把握して介護計画の見直しをしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	出来る限り、支援するよう努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティアの訪問はあるが、利用者個人の意向をふまえた支援に繋がっていない。		地域の情報を把握し、本人の意向に合うことを見つけて支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他の業所の絵はがき教室などに参加しているが、機会がすくない。		他の事業所やケアマネとの情報交換を行い、利用したい方がいれば利用してもらう。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時は相談報告している。運営推進会議の出席を要請している。欠席時は議事録を届け会議内容を報告している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人及び家族に主治医を決めてもらっている。また、定期的な往診・緊急時の往診など、利用者の状況にあった医療が受けられている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医と主治医の両方に相談することで、利用者の状況にあった医療が受けられている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員により、日常の健康管理等を把握しており、支援にも役立っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはこまめに訪問し、利用者の状況を把握している。また、病院関係者に相談しながら、早期退院に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>日頃から、利用者の状態を家族・医師と共有しており、段階に応じて話し合いを行い、全員で方針を考えている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>事業所の「できること・できないこと」を見極めた上で、家族や主治医の協力のもと、支援に取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>家族やケア関係者との情報交換の場を作り、住み替えによるダメージが最小限になるよう努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人ひとりの人格を尊重した介護に努めており、個人情報の取り扱いには配慮している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は考えを押しつけず、選択肢をあげるなどして、なるべく本人に決定してもらうよう心がけている。しかし、判断が難しい方の希望の表出がまだまだできていない。</p>		<p>その人に合わせた方法を、職員・家族と話し合い、見つけていく必要がある。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>往診日や行事など、決まっている以外の日は、なるべく個人の状態や気持ちを優先しながら、過ごし方を考えている。(散歩・買い物・喫茶店など)</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は希望があるときは、家族に相談して協力してもらっている。又ボランティアも定期的に訪問してくれている。その日に着る洋服を一緒に選んだり、一緒に買いに行くこともある。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理の下準備・作り方・味付け・お菓子作りなど、利用者それぞれの得意なことを引き出すように、心がけている。毎食後のお皿拭きは、習慣になっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は利用者の嗜好を把握しており、好きなお菓子を一緒に買いに行くなど、楽しんでいる。行事やお祝いの際は、お酒を飲むこともある。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の状態に合わせてトイレ誘導を行っている。また、状況に応じて、おむつなどを使い分けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	無理強いをせず、本人のタイミングに合わせた入浴を心がけている。入浴拒否が続く方には、声かけを工夫している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の睡眠のリズムに合わせた日中の休息を、心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	バックグラウンドを活用し、役割や楽しみを見つけるよう努めているが、全員とはいえない。		すべての入居者が、張り合いや喜びを感じる機会を増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理できる方には、普段からお金を所持していただいている。また、管理が難しい方に関しては、会計時にお金を渡し、支払ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物・外出など、外に出るよう心がけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の方の希望で外出をされることもあるが、職員が同行することはほとんどない。		機会が少ないため、検討していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合は、本人自ら電話をしていただき、希望がない場合は、職員の勤めで電話するように努めている。葉書を用意し勤めているが、あまり反応がよくない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来やすい雰囲気を作るため、利用者・家族・他の利用者を出して会話をしよう心がけている。また、他の利用者にお茶を運んでもらうなど、暖かい雰囲気を作るようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事務所の見えやすいところに、身体拘束の具体的例を掲示しており、職員はいつも頭に入れてケアを行っている。玄関は日中鍵をかけていない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の外と中にセンサーを設置しており、出入りがわかるようにしている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は、見守りやすい場所において、利用者の行動が分かるよう努めている。その場を離れるときは、職員同士が声を掛け合うように心がけている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>洗剤・消毒類・刃物など、利用者の状態に合わせ、危険な場合は取り除くようにしている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>外部研修より伝達研修また事業所内研修を毎月開催し事故防止に努めている。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>定期的に訓練している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内の火災訓練は行っている。運営推進会議にて地域の協力を得ることができている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	予想されるリスクについて、家族の方には説明しているが、十分ではない。		十分ではないため、対策を話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェック・食事摂取量・排泄・表情等を観察し、その都度、職員が情報を共有している。また、特変がある場合には、介護記録に残すようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師への相談や、薬の説明書で、目的や副作用等、確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便リズムを知り、便秘予防のために、散歩・体操・水分補給に気をつけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は口腔ケアの声かけ、誘導、介助を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	医師に相談をしながら、栄養バランスを考えている。水分量が少ない利用者には、水分量を記録に残し、こまめに水分摂取を勧めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	玄関入り口、洗面所など数カ所にウェルパスを置き、感染予防対策を行っている。感染予防について、事業所内研修を開催して、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾は毎日洗濯をし、まな板などは、夜勤者が漂白を行っている。食品・冷蔵庫内は、曜日を決めて清掃・賞味期限チェックを行うようにしている。台所に入る際には、手洗いを心がけている。自主衛生管理記録表を作成し毎日チェックしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のまわりに木や花を植えている。目の前の畑の手入れまでは手が回らない。		利用者と一緒に花を植えたり、野菜を育てられるよう、検討していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特にこった飾り付けはせず、家庭的な雰囲気を目指している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室・ソファ・ウッドデッキなど、自由に利用している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・家族と相談しながら、使い慣れた物や写真、仏壇を置くなどし、居心地のいい場所を作るよう心がけている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓・天窓を開けて、換気や温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑りにくい床、要所への手すりの設置など、安全に暮らせるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの扉には、目立つように標識を貼るなどの工夫をしている。居室の出入り口に表札があるが、それでも他者の居室に入ることがある。		文字の認識が難しい方に対するの対策が必要である。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物のまわりで散歩をしたり、ウッドデッキでは洗濯物を干したり、お茶を楽しんでいる。		